

夏休み特別企画レポート③

未来のエコサポーター スタジアムで奮闘

8月25日(水)の仙台スタジアムのMELONは一味違いました。なぜなら『めざせ 仙台スタジアム・エコサポーター!!』と銘打った企画を開催し、小学生26名の強力なサポーターがついていたからです。本企画は仙台スタジアムで取り組んでいるゴミの減量について知ってもらうことが目的です。

まずはスタジアムの中を見学しました。普段は入る事のできない場所に、みんなきよきよ。続くゴミ講座では、株式会社サイコーの今野恵さんが、仙台スタジアムで分別回収している紙コップのリサイクルについて教えてくれました。と、ここでサプライズゲストのベガッ太君の登場に、みんな大はしゃぎです。撮影後は、「ゴミの分別 持ち帰りにご協力ください」「プレイは華麗に！スタジアムは綺麗に！」と書かれた横断幕を持ってフィールドを周回しました。直前の練習では緊張していた子も、本番では大きく手をふりながら堂々と歩いてくれました。ちびっ子たちは『楽しかった!』『もう1回やりたい!』と大満足の様子で、みんないい顔をしていま

した。そんな頑張るちびっ子たちのためになのか、今日のベガルタはやってくれました。試合は4対1でベガルタの快勝！みんな大喜びでした！

試合観戦後はいよいよスタジアムのクリーン体験です。軍手をはめてごみ袋を持ったらいざ開始。ちびっ子の目は厳しい！座席の下の、小さいごみまでくまなくチェックしてくれました。彼らの大活躍のお陰でスタジアムはキレイになりました。ごみ分別への意識も高まった様子で、この企画が意味のあるものになって良かったと思います。みんな、お疲れさまでした！



「ゴミ拾い〜」っと。

文章：ボランティア木村真理子

写真：ボランティア遠藤由吏

夏休み《教師向け》特別企画レポート

環境学習地視察 自然の中 童心に返って

いまだお盆休みの余韻も冷めぬ8月17日(火)志津川方面へのスタディーツアーが開催されました。早朝から県内の小中学校教諭と環境団体メンバーが集い、志津川町自然環境活用センターでの『海藻おしば講座』からツアーがスタートしました。

海藻の生育環境や生態系における役割の講義を受けた後、海藻おしばの作成にとりかかりました。みなさん真剣な表情です。でき上がった作品はそれぞれに個性が光り、味のあるものばかり...海藻を違う視点からとらえることによって、海への感心も深まります。その海は、川、そして山からつながり、全ての自然が循環していることを再認識させてくれます。



海藻おしば作成中！シ・ン・ケ・ンです。

昼食は農漁家レストラン慶明丸。とれたての三陸の恵みを味わいました。その後、北上町へと移動し、北上川河口のヨシ原の自然に触れ合いました。町中央公民館の武山文衛館長を講師に招き、ヨシの水質浄化作用について学びました。ここは日本の音風景百選にも選ばれており、自然の雄大さと風の音を身近に感じることができます。ヨシの群落に身を包み静かに眼をつぶっていると、人間社会から解放され、自分がいかにちっぽけかということを感じ知らされます。この何とも言えない癒し効果は、自然環境を学ぶということ以上の素晴らしい感動を与えてくれました。

最後はのんびり村。村長の坂下清子さんはご自宅の蔵を開放し、農家と漁師の仕事を自然体験プログラムとし、受け入れを行っています。坂下さんの明るいお人柄と、好奇心をくすぐるのんびり村の所有物は、誰もが目を輝かせた子どもにかえり、ふるさとを訪れた空間に身を置くことができます。

地球環境保全とは、大人がかつて過ごした子どもの時代を取り戻すこと。そして環境教育とは、心の教育に価するというところを、この時代になってやっ

と気づき始めたのではないのでしょうか？